

日本の助成・研究機関における オープンアクセス方針

2019年6月21日



科学技術振興機構

オープンアクセス(OA)とは

- 学術研究成果を誰もが無料でオンラインで利用できるようにすること
 - インターネット経由で無償かつ自由に利用可能
 - 利用・再利用に係るライセンスが明示されている
- OA化の方法(BOAI(Budapest Open Access Initiative)による)
 - セルフアーカイビング(グリーンOA)
 - OAジャーナル(ゴールドOA、ハイブリッドOA)への投稿

OAがもたらす利益

読者の獲得

研究者・所属機関は、多くの読者を獲得することができる

最新研究へのアクセス

研究者は、最新の研究手法を簡単に利用することができる

新たな課題の発見

より多くの人々の目に留まることにより新たな研究課題が見つかる可能性が高まる

市民への還元

納税者・市民は、税金によって得られた研究成果物にアクセスすることができる



世界への扉を開く

ジャーナル出版社は、国際市場への参入のきっかけを作ることができる

助成による効果の還元

助成機関は、助成・投資効果をより広く産業・社会に還元できる

研究の突破口を開く

思わぬところから研究への助言やヒントを得られる可能性が高まる

引用数の増加

研究者・所属機関は、より多くの引用を獲得することができる

参考：<https://sparceurope.org/what-we-do/open-access/oa-benefits/>

https://aoasg.files.wordpress.com/2013/02/benefitsofopenaccess_cc-by_logo.pdf

OAに係る国内の政策

- 2011年8月 第4期科学技術基本計画
- 2015年3月 内閣府「国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会」報告書
- 2016年1月 第5期科学技術基本計画
- 2016年2月 文部科学省 科学技術・学術審議会 学術分科会 学術情報委員会 学術情報のオープン化の推進について
- 2016年5月 G7茨城・つくば科学技術大臣会合 つくばコミュニケ
- 2016年7月 日本学術会議 オープンイノベーションに資するオープンサイエンスのあり方に関する提言
- 2017年6月 科学技術イノベーション総合戦略2017

助成・研究機関のOAポリシー：助成機関

助成機関

2013年	科学技術振興機構	OA方針
2015年	日本医療研究開発機構	公募要領の「研究成果の取扱い」に研究開発成果のOAの確保について明記
2017年	日本学術振興協会	「独立行政法人日本学術振興会の事業における論文のOA化に関する実施方針」
2017年	科学技術振興機構	「オープンサイエンス促進に向けた研究成果の取扱いに関するJSTの基本方針」

助成・研究機関のOAポリシー：研究機関

研究機関

- 国立大学16校(全86校)がOA方針を策定・公開

2015年 京都大学, 筑波大学

2016年 徳島大学, 九州大学, 千葉大学, 名古屋大学

2017年 神戸大学, 東京外国語大学, 一橋大学

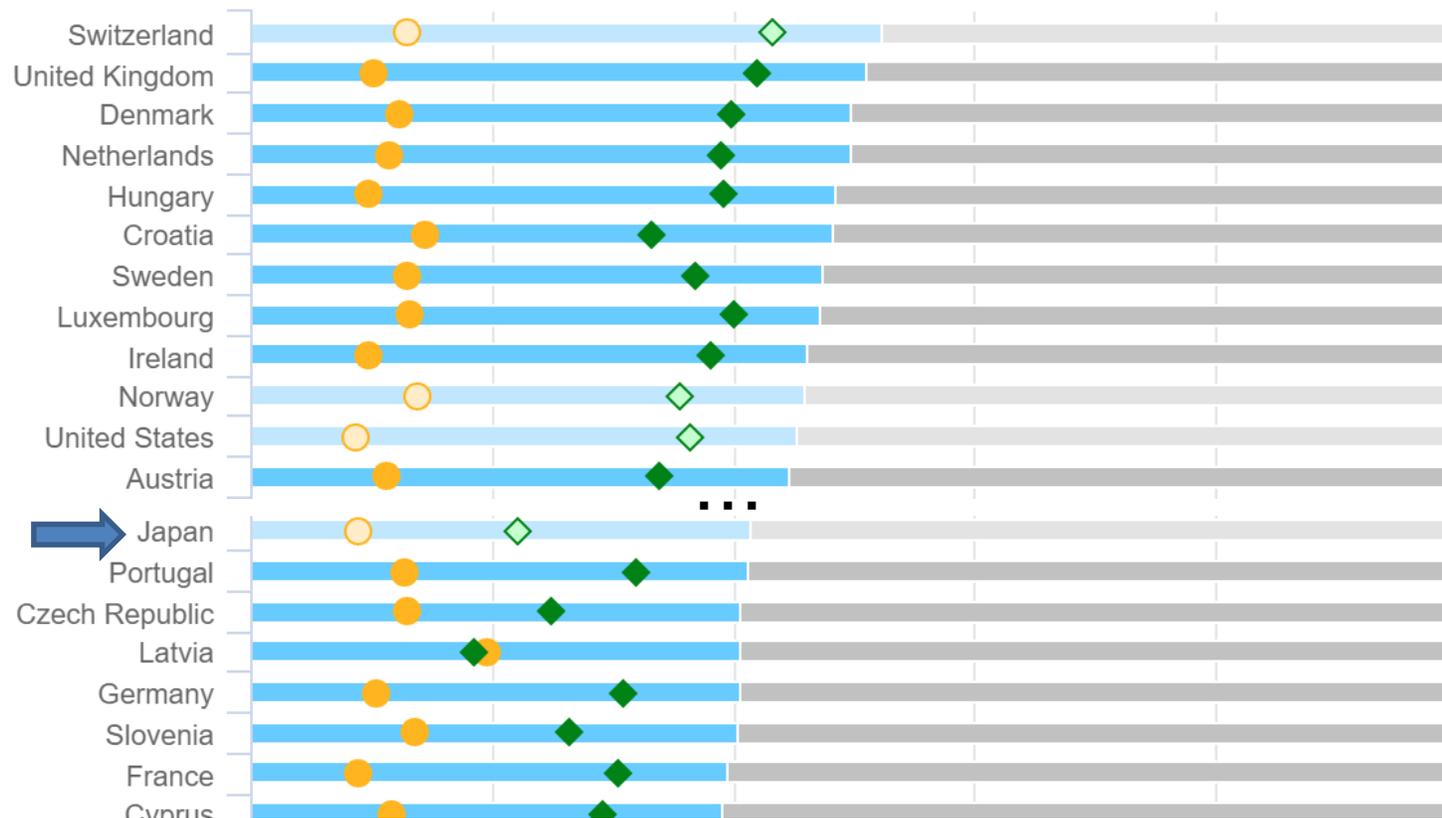
2018年 横浜国立大学, 東北大学, 広島大学, 金沢大学,
島根大学, 電気通信大学

- ほぼすべての大学がリポジトリを整備

国別OA・非OA論文割合と日本の現在地

Percentage of Open Access publications (Gold and Green) by country

Source: Consortium's own analysis of Scopus and Unpaywall databases - Reference date: 2009-2017



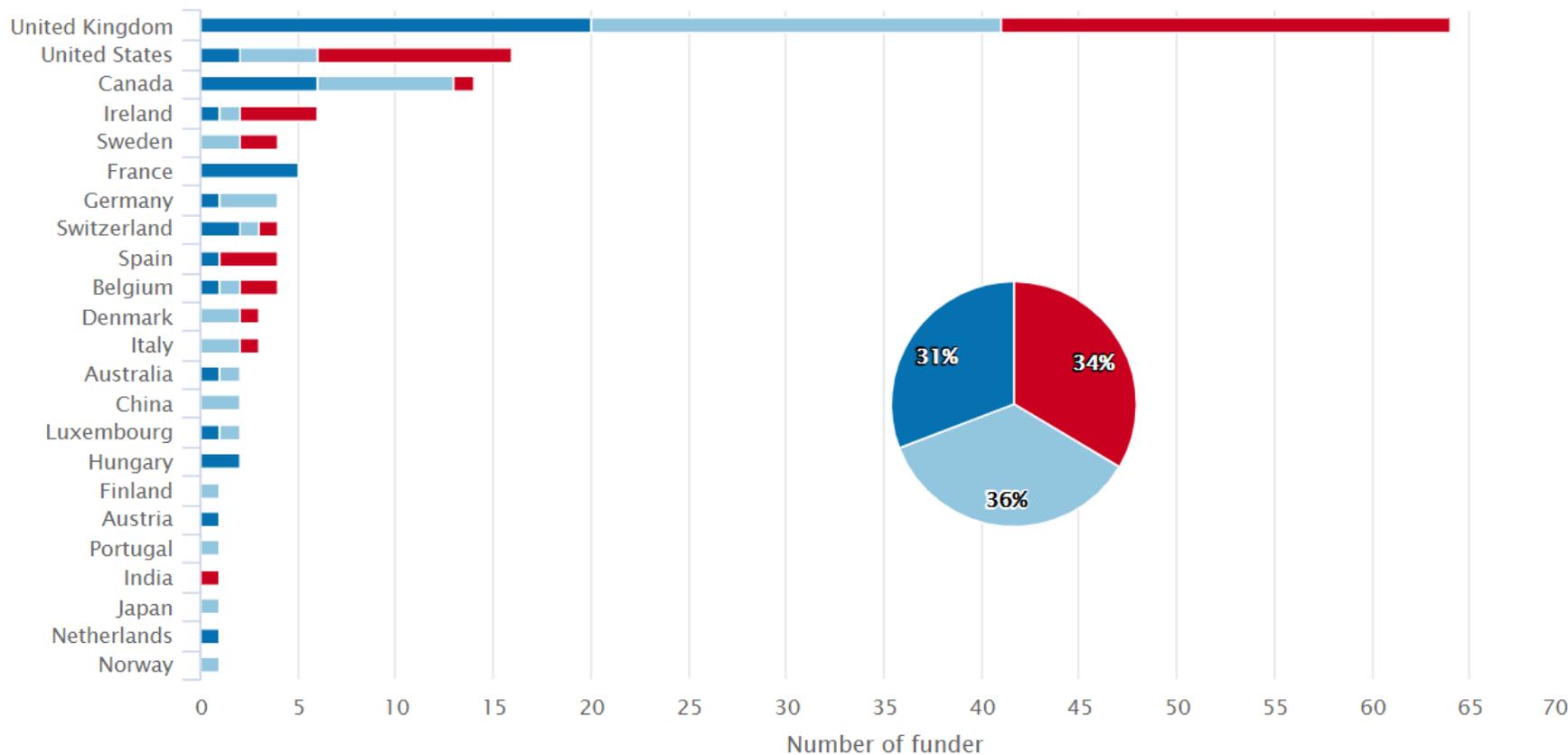
- 日本のOA化率は 40%超 (41.3%)
- 世界的には 中位
- 内訳
 - ゴールドOA: 8.7%
 - グリーンOA: 22%
 - その他OA: 10.6%

出所: https://ec.europa.eu/info/research-and-innovation/strategy/goals-research-and-innovation-policy/open-science/open-science-monitor/trends-open-access-publications_en

OAポリシーを有する助成機関(国別)

Number of Funder with policies on open access – publishing, by type of mandate and country

Source: Sherpa-Juliet – Reference date: March 26th 2019



出所: https://ec.europa.eu/info/research-and-innovation/strategy/goals-research-and-innovation-policy/open-science/open-science-monitor/trends-open-access-publications_en

まとめ

- 国レベルでOA, オープンサイエンス政策を推進
- OAポリシーを導入する機関が増加傾向
- リポジトリなど論文を掲載するためのインフラ整備の進展
- 世界の助成機関の半数以上がOAポリシーを導入

⇒ 国内外の動向を注視する必要あり

ファンド情報の把握について

ファンド情報の把握にご協力ください。

- J-STAGEに登載する際, メタデータにファンド情報を入力
 - 論文投稿システムから登録されたファンド情報を入力。加えて, 著者に対し, ファンド情報を登録するよう推奨
 - 論文(謝辞等)に記述されたファンド情報を入力

※政府は、公的研究資金を受けた研究成果の把握を試みています。
ファンド情報の入力はこの取り組みに寄与するものです。